

済生救民と社会との共生

《本号の表紙絵》

済生学舎の校舎と学生生活

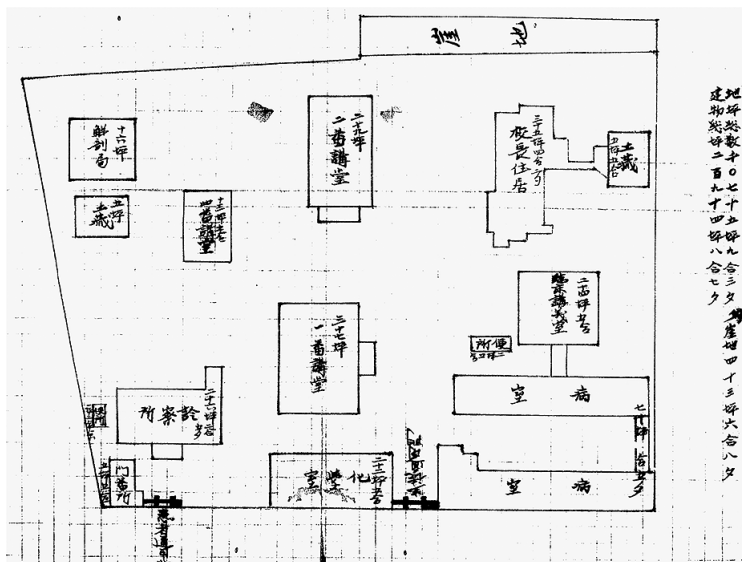
今学会のテーマは「医療人の最も大切な道は、貧しくしてその上病気で苦しんでいる人々を救い、社会でお互いに支え合い共に生きる事」として題した。続き、表紙絵を上図より時計回りにて解説する。

●日本医史学会功労会員 故唐澤信安先生による明治23年ニコライ堂建築中の櫓の上より撮影した写真をもとにスケッチされた済生学舎（湯島4丁目8番地）。済生学舎は、この角度より左側に女子師範学校、右側に高等師範学校に挟まれその遠方に位置する（北海道大学附属図書館北方資料室蔵）下図は東京都公文書館蔵の明治20年の済生学舎敷地図。敷地面積は、約1,075坪で建物坪数は約294坪である。敷地図には、生徒用通用門があり、別に患者用通用門がある。生徒用通用門（冠木門）を入ると（明治29年の卒業生沢式描写参考）、左側に化学室があり、右側に蘇門病院の病室二棟が見られる。

●毎年上野公園の運動場で行われた済生学舎の明治25年の運動会の写真。中央で腕組みをしているのは、壮年の長谷川泰校長、泰の左側は、息子の保定、泰の右側は、教師田代義徳、教師山田良叔と思われる。

●済生学舎で当時使われていた長谷川泰譯述資料の教科書類の一部で、『診法要訣上・下』長谷川泰譯纂、行餘堂、明治14年、『斯泰涅爾小児科1-6』Steiner, Johann 著 長谷川泰譯述、行餘堂である。済生学舎では、授業は原書を使って行う場合はドイツ語による原書を用い、訳書を使って行う場合は翻訳書を用いており、長谷川泰は英語、ドイツ語、オランダ語等の多くの原書を翻訳・出版して講義に役立てていた。

（実行委員長 志村 俊郎）



東京都公文書館蔵の明治20年の済生学舎敷地図